

小児白血病患者でのL-アスパラギナーゼ筋注時におけるエムラ[®]クリーム^(R)の有用性について

○長原 新太郎¹, 星川 美夕紀¹, 木村 早百合¹, 林 太祐¹, 片山 志郎¹(¹日医大病院薬)

【目的】小児において注射針穿刺時の痛みは患児の肉体的・精神的負担となるだけでなく、拒否を伴えば疾患の予後そのものに影響を及ぼす重要な問題である。小児白血病治療におけるL-アスパラギナーゼ（以下L-Asp）の筋注は投与回数も多く、痛みが伴うため患児にとって辛い治療のひとつである。しかしながらL-Asp筋注時の疼痛緩和についての報告はまだない。そこで本研究はエムラ[®]クリームを用いて、小児白血病患者へのL-Asp投与時の痛みの緩和への有用性を検討した。

【方法】2016年8月から2016年11月までに入院している急性リンパ性白血病（以下ALL）において、既にL-Asp投与歴のある患児にエムラ[®]クリームを使用する前後での注射針穿刺時および薬液注入時の痛みについて自己評価表（Visual Analog Scaleとface scale）を用いて調査した。投与時は行動観察スケール（千葉大看護部 中村ら 1993）も用いて評価を行った。

【結果】2名の患児について、評価を行うことができた。5歳以下の患児が1名、10歳以上の患児が1名であった。10歳以上の患児では注射針穿刺時の痛みの緩和が確認された。5歳以下の患児は評価が困難であった。

【考察】エムラ[®]クリームによる注射針穿刺時の痛みの緩和は5歳以下では幼いため自己評価が難しかったが、医師・看護師・親による他覚所見では痛みは緩和されていた。10歳以上の患児では、また使用したいという意思表示もあり、受け入れは良好であったと考えられる。一方で薬液注入時の痛みについては十分な効果は見られなかった。今回の検討により小児科でのエムラ[®]クリームの使用は、注射針穿刺時の痛みの緩和を通じて治療アドヒアランスの向上に寄与する可能性が示された。